

# 祈りのかたち

新型コロナウイルス感染症の影響により人の集まるイベントなどが自粛されています。五穀豊穡や人々の息災を祈る伝統ある春の祭りも、中止や縮小が決まっています。先人から受け継いできた春の三大まつりにこめられた「祈り」と「かたち」を紹介します。

国文化財保護課 ☎(582)1156 ☎(582)9441

## 近江のケンケト祭り

### 長刀振りとは

(国重要無形民俗文化財) 湖南地域

近江のケンケト祭り長刀振りは湖南地域(守山市、甲賀市、東近江市、竜王町など)で行われる祭礼です。

ケンケト祭りの名前の由来は、踊り子が片足でステップを踏むケンケン跳びの様子からきているという説やかねや太鼓を鳴らすときの口唱歌に出てくる「ケンケト」という言葉からきている説などがありますが詳しくは分かっていません。

市内の小津神社、下新川神社の祭礼では音頭の中に「サンヤレ」という言葉がたびたび登場し、サンヤレ踊り(草津市などで執行)とも関わりがあります。長刀振りを伴っているためケンケト祭りに分類されています。

ケンケト祭りはサンヤレ踊りとともに趣向を凝らした衣装やきらびやかな花笠などをまとうて歌やかね、太鼓などに合わせて踊ることから中世に起こった「風流踊」に分類され、現在文化庁がコネスコ無形文化遺産登録を目指しています。

## 長刀まつり

### 杉江町 小津神社

(国重要無形民俗文化財)

約1,400年前、欽明天皇のころ、琵琶湖の氾濫により湖中へ流失した神

霊を迎えた際、氏子らが踊りを奉納したのが始まりと伝い伝えられています。

かねや太鼓の音頭とともに小・中学生を中心に約250人の踊り手が「ヤーホイ」の掛け声とともに長刀を左右に振り回しながらの行列や、また鮮やかに長刀を上空へ放り上げたり、体を回転させる妙技を披露したりします。

一列になって行進する「長刀振り」とササラ、笛、かね、鼓、太鼓などの囃子に合わせて音頭を取りながら踊る「田楽踊り」があります。



## すし切りまつり

### 幸津川町 下新川神社

(国重要無形民俗文化財)

ケンケト祭り長刀振りに分類されているのは、すし切り神事の後に奉納される「諫鼓の舞」と「長刀振り」です。諫鼓の舞は雄の獅子から雌の獅子への求愛を表現したもので、音頭に合わせて踊りながら、徐々に惹かれていく様子を現しています。

祭りの名前となっている「すし切り」神事は、約2,000年前、崇神天皇の皇子、豊城入彦命が幸津川を訪れたときに、琵琶湖でとれたフナの塩づけを焼いて献上したのが始まりとされており、拝殿前の広場にかみしも姿の若者2人が座り、長いはしと包丁を使って古式にのっとり大きな動作で子持のふなすしを切り分け神前に供えます。



## 豊年踊り

### 吉身四丁目 馬路石邊神社

(市指定無形民俗文化財)

豊年踊りは昭和30年代まで毎年5月13日に奉納されていたが一時期とだえていました。有志の努力により昭和51年に保存会が結成され復活し、5月4日・5日に奉納されるようになりました。

踊りは中世の田楽踊りの系統と考えられており、玉津村史によると、元は小津神社の祭礼に属していたと伝えられています。吉身が独立した祭礼を行うようになった経緯は定かではありません。

踊りは太鼓持ちと太鼓打ちが中央周りで音頭取り、稚児が輪をつくり、音頭取りの歌詞に合わせて舞い、奉納されます。歌詞は小津神社の祭りと共通ですが節回しがやや異なります。



※今年度の春の三大まつりは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般公開されません。ご了承ください。